金融・労働研究会ネットワーク研究会への報告　2024・11・3

三浦泰裕

北海道の地域金融で起きていること

先端半導体製造会社「ラピダス」の千歳市への工場建設

・北海道の千歳市に工場建設を進めているラピダス株式会社は、世界最先端の半導体回路線幅2ナノメートル(ナノは10億分の1)のロジック半導体を製造することを目指し、2022年8月にトヨタ自動車、三菱UFJ銀行等大企業8社が資本金73億円を出資して設立された会社。

・設立後ただちに政府から700億円の補助金を受け、翌2023年度に2600億円、さらに2024年度には5900億円の補助が決まり、これまで総額9,200億円もの税金がつぎ込まれている。半導体の試作品の製造まで2兆円、量産化するまでにさらに3兆円の資金が必要と言われている。

・北海道経済団体連合会でつくる北海道新産業創造機構は、ラピダスにより2023～36年度の14年間に18兆4千億円、単純計算で年間1兆3千億円の経済波及効果が生まれると推計し、北海道の主要産業である「観光産業に匹敵する」と発表。マスコミは「北海道の産業構造が変わる千載一遇のチャンス」と喧伝し、北海道庁は「次世代半導体をトリガーに、世界に挑む北海道」の見出しの広報誌を全道民に配布した。

・企業や道民のなかには「ラピダスで北海道の地域経済が活性化」し経済や暮らしが良くなるのではないかとの幻想が生まれている。

北海道・札幌市が「金融資産運用特区」に指定

・北海道・札幌市は24年6月、岸田首相の肝いりでの政策として創設された「金融・資産運用特区」に選定された。「金融・資産運用特区」とは、海外の資産運用会社を誘致し「国際金融センター」を目指すというもの。(「特区」指定は、東京都、大阪府・大阪市、福岡県・福岡市と4地域)

・北海道・札幌市は、他地域と差別化をするため、再生可能エネルギーなどへの環境関連分野、いわゆるGX関連投資を呼び込む「GX金融・資産運用特区」とした。日本の再生可能エネルギー供給基地と世界の金融センターの実現を掲げ、洋上風力発電や水素の活用など道内全体への投資を加速させつつ、札幌市を中心に資金や情報、金融人材の集積を図る。

・道・札幌市が政府に提案した銀行のGX関連事業に対する出資規制の緩和は、銀行の本業以外の業務を行う子会社・兄弟会社の「銀行業高度化等会社」がGX事業に出資できるようにする、北洋銀行、北海道銀行など地域金融機関を中心に、GXコンサルタント業務などを行える範囲を拡大する、札幌証券取引所の活性化を進め、事業者の誘致や地元企業の資金調達などを円滑する、などである。

ラピダス進出や「GX金融資産運用特区」に対して地域の金融機関は

・人口減少で金融市場の縮小は避けられない道内は「常に起爆剤が必要」(地銀関係者)

・札幌を金融センター化する狙いがあり、地銀や信金には商機になる。

・北洋銀行　→半導体産業やGX（グリーントランスフォーメーション）などを取り組む頭取直轄の成長戦略企画室を設置。(コンサル子会社の北海道共創パートナーズの従業員を2倍の120人にして脱炭素や半導体分野での事業性の判断のための知見の蓄積を急ぐ)

・北海道銀行　→次世代産業支援グループを発足

・北洋銀・道銀の両行とも、信金や信組と協力して情報共有を進め、協調融資などでリスク軽減を図る。

・北海道信用保証協会　→ラピダスやGXなどの産業に関連した資金需要に対応する「次世代産業関連サポートデスク」を設置。9支店に相談窓口を設置。

・北洋銀行は、2023年9月に再生可能エネルギー事業や半導体産業などへの投融資を2030年までに5千億円とすると発表したが、翌年2月には2036年度までに最大2兆円の投融資を目指すと変更。

今年6月には、すでにラピダスに関連して工事建設に携わる企業の運転資金や従業員の共同住宅の整備費などに220億円の融資を実行したと公表。

・信金・信用組合　→「金融・資産運用特区」に8割の信金・信組が期待を示している。(道新の道内20信金、7信組に対するアンケートの結果)

そもそも成功するのか？「最先端半導体製造」と「金融資産運用特区」

・ラピダスの最先端の半導体製造の量産化は可能なのか。

　→IBMが開発に成功した技術は「研究所の技術」、量産化の技術はできていない。

→日本の半導体技術は周回遅れ。微細化技術の「土台」がない。

　　→半導体製造に関連する企業の道内工場の立地はなし。理由は「成功の見通しがない」

　　→「ラピダスは工事の遅れの懸念や製品量産までの技術的な難しさも指摘されている。チャンスが一転ピンチになるリスクはないのか。」(道新の道商工会議所岩田会長への質問)

・ラピダスの資金調達

　　→当面1千億円の資金調達にトヨタなどの出資会社8社が最近やっと応じたがまだ決定したのは250億円。

→政府は、ラピダスに工場と交換に株を取得して実質に政府出資する。ラピダスの民間融資に政府保証を付ける。

・デジタル化で世界のどこからでも投資できるのに

　　→国内外の金融都市と競い、資産運用会社や投資家を札幌に誘致できるのか？

北海道の中小企業金融と中小企業の現状

・中小企業の経営困難が広がっている

円安による物価高騰、資材・経費の値上がりを価格転嫁できず／ゼロゼロ融資の返済／税金・保険料の強権的滞納徴収／インボイス／人手不足・人件費の上昇

・保証協会の代位弁済の増加　23年度件数34.6%増、24年上半期件数26.9%増

・企業倒産の倒産増加　2024年上半期企業倒産、3年連続増加

[北海道信用保証協会　信用保証の実績　令和6年10月10日]



